



長柄町から新しいライフスタイルを提案する地域創生プロジェクト

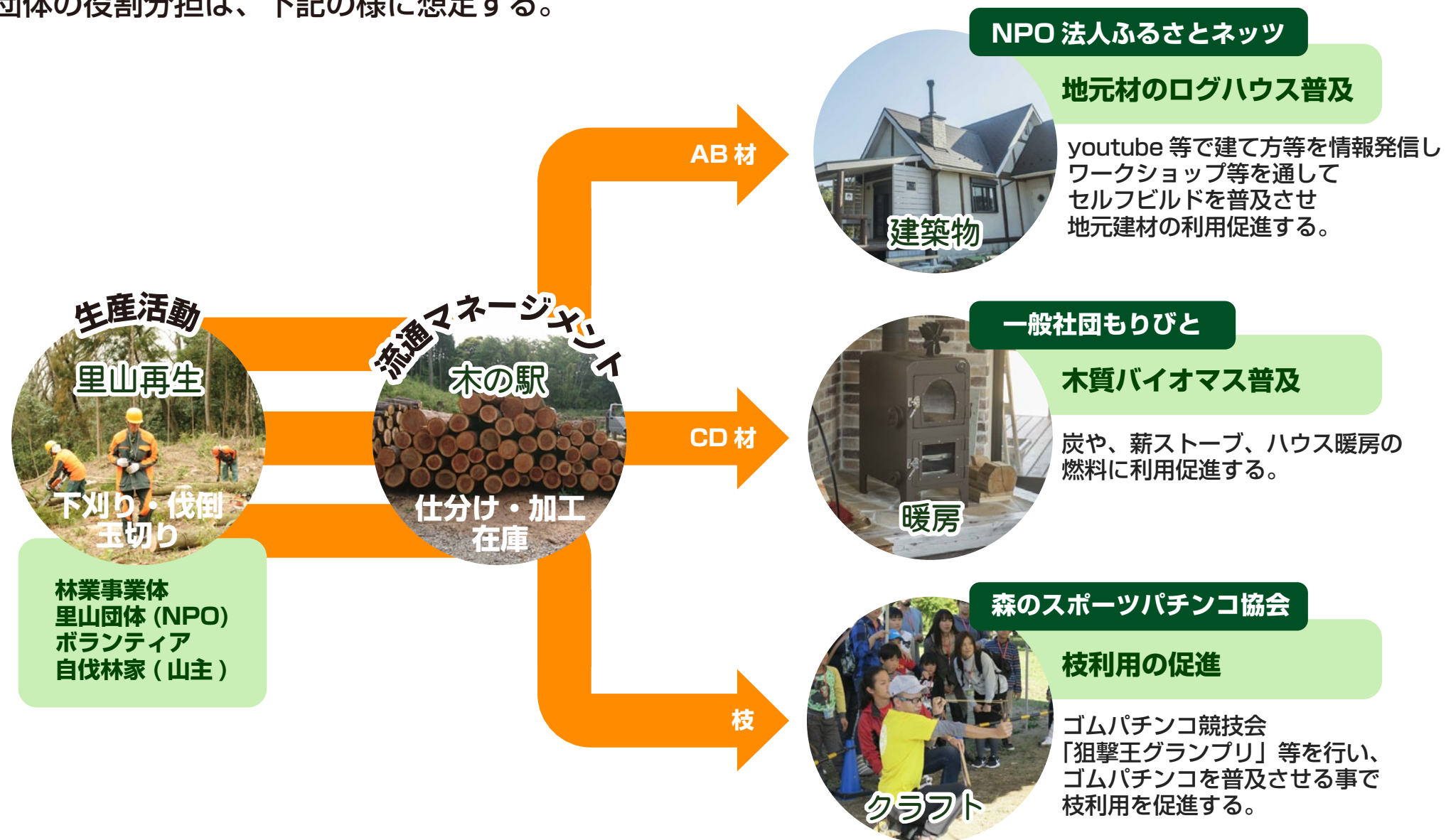
長柄町 ログハウス セルフビルドヴィレッジ化構想

～ながライフから交流人口増加へ～



里山資源を無駄なく使う為の「木材流通ステーション（木の駅）」概要

長柄町最大の資源である里山資源である木材を木材流通ステーションを起点に、商品にして販売するまでのサプライチェーンを構築する。
各団体の役割分担は、下記の様に想定する。



長柄町 セルフビルドヴィレッジ化構想 企画背景

古民家のリノベーションして住む事は、どこの地域でも行われています。
しかし、家を自分で建てるとなると、簡単には出来ないの自治体ぐるみで取り組んでいる所が無いといった現状です。これが軌道に乗れば荒廃林整備の先進事例となります。

■なぜログハウスなのか？

丸太をそのまま利用する家なので、建材の角材にも向かない放置杉林のB材を多く利用する事ができます。
そして、**100m² のログハウス**を建てるとすると、**約 600 坪の杉林を整備**する事が出来ます。

■ログハウスはどんな住宅？

1つとして同じ物のない丸太をそのまま利活用しますので、柱や梁の重厚さが違い、見た目にも立派で**高級住宅**と言えます。そんな贅沢な雰囲気過ごす時間は、きっと日常の疲弊した心と体を、充填してくれるに違いありません。

■なぜセルフビルドか？

高級住宅であるログハウスはもちろんコストも高いものです。
しかし工期は掛かっても、自分で建てれば、コストは下がります。
自分で建てる事で、**普通の住宅を購入するよりリーズナブルに**、
高級セカンドハウスを手に入れる事ができます。
柱や梁を自分で刻み組み立てたとなれば、出来た家への愛着も一際でしょう。

家を自分で建てる事は、究極のDIYであり、最高のエンターテインメントです。
このエンターテインメントを**長柄町の地域活性の核**にしていければと思っております。
家を建てる為に頻繁に通うので土地勘ができ、自分で建てた家には柱1本から愛着が生まれるので手放したく無くなり、将来永住する可能性が高まります。
そんな**二拠点生活をながライフ**として定着させます。

町ぐるみで**ログハウスのセルフビルドを推進し交流人口を増やしていく**事が
長柄町セルフビルドヴィレッジ化構想です。

■実際の価格は？

内外装の装備次第ですが **100m² のログハウスで 1,000 万円前後**となります。



ながライフ コンセプトとターゲット



ながライフ

Fillstaying

filling staying

充填する 滞在する

フィルスティング＝充填する滞在

オフに都市近郊の田舎に行き、お手軽田舎ぐらしで充填するライフスタイル

コンセプト

都心では小さい借家でも週末は贅沢な住宅で過ごし、仕事で疲弊した心と体を、自然あふれた贅沢な雰囲気過ごす事で、充填し都心に戻るちょっと贅沢な二拠点生活。

ターゲット

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ・ 30代～40代半ば | ・ 健康志向で食べ物への意識が高い |
| ・ 年収1000万以上 | ・ 人と少し変わった事がしたい |
| ・ 仕事はバリバリだが本当は疲れ気味 | ・ 多趣味 |
| ・ 都内近郊の都心に賃貸で在住 | ・ パーティーやバーベキューが好き |
| ・ 車を持っている | ・ スポーツは程ほどに好き |
| ・ 別荘を持ちたい | ・ がっつりの田舎暮らしは嫌 |
| ・ 行き過ぎない自然派 | ・ まだまだモテたい |

長柄町セルフビルドヴィレッジ化構想プラン

町ぐるみでログハウスのセルフビルドを推進すると宣言し、ログハウスで交流人口を増やす。

フェーズ1

素人が伐った木でバス停を作ってみた



地元材を切り出して、その材で長柄町役場にポストアンドビームのバス停を作る。
チェーンソー講習で伐った木を、伐った人が加工していく。

フェーズ2

女子が、伐った木でログハウスを作ってみた

2年間の補助金決定！



フェーズ1のメンバーを中心にセルフビルドの基地となるログの宿泊ロッジを作る。
クラウドファンディングを活用し投資してくれる体験者を募集する。
リターンは、チェーンソー講習、セルフビルド体験、ジビエ BBQ、宿泊権等。

フェーズ3

セルフビルド技術の拡散と NagaraYA ブランドの確立へ



フェーズ2でのセルフビルド経験者を中心に新たなセルフビルド希望者も加え
宿泊ロッジを基地にしながら、何棟か建てながら、どんどん技術を拡散していく。
と共に、ながライフ フィルステイニングというライフスタイルを体験してもらい、
交流人口を増やし、移住定住支援窓口としていく。
また、近隣山林から伐り出して出来た、かわいい小屋を「NagaraYA」として
ブランド化していき、ふるさと納税の返礼品に加える様に働きかける。

フェーズ2 女子が、伐った木でログハウスを作ってみた。(2019年から実行予定)

YouTube 配信番組「女子が、伐った木でログハウスを作ってみた」でログビルドのハードルを下げ、長柄町の空き地を自分でログを建てたい人の受け皿にし、ワークショップ等で長柄町に足を運ぶ機会を増やす。この番組を長柄町のPR番組にできる様に制作していく。

外部連携

- ・長柄町観光協会
- ・長柄町土建組合
- ・一社) もりびと
- ・特非) 竹もりの里
- ・友次製材
- ・杉並区立 方南小学校おやじの会
- ・早稲田大学サークル環境ロドリゲス
- ・ベビーカーおろすんジャー



ベテランログビルダー
松本透亮氏から本格的な
ログビルドを習う。

ログテック

協力

交流人口増加



地元関連企業

仕事



長柄町 空地バンク

長柄町の空き地を
ログハウスをセルフビルド
したい人の受け皿にする。

ながらまち
長柄町

ログハウスのセルフビルド
で交流人口を増やす事を
積極的に応援して頂く。

後援



You Tube 番組

ミス日本 みどりの女神が
ログハウス作りに挑戦する
YouTube 動画で
家の作り方をシェア

建てた家は長柄町に寄付し
維持管理をふるさとネットが行う。
ネーミングライツとして
通称「女神ハウス」として稼働し
ミス日本の活動にも使って頂く。

協力



×



潜在需要

究極のDIYである家づくりをエンタメ化する。
クラウドファンディングやwebマガジンとの連携
から、PJのファンを作りワークショップや
イベントを通して潜在需要を掘り起こす。

元新建築編集長

日本ログハウスオブザ
イヤーの審査員でもある
理事長 中谷正人氏が
番組監修する。



ふるさとネット

「NagaraYA」はこんな家





完成に近づいた井上源太郎さんの家。下は内装=いずれも2月、茂原市



と決め、東京と往復しながら
試行錯誤を重ねて建築を進めて
きた。

まず、2015年12月から長
南町の長年放置されてきたスギ
林で木材の切り出しを始め、約
300本を切った。柱やはりに
使える立派な木もあったが、ス
ズノ腐病のため約3分の2が全
く使えなかった。

木材は16年8月から半年以上
かけて加工し、17年5月から基
礎の上に組み立てを始めた。同
7月に骨組みが完成。屋根をス
レートの屋根材でふきはじめた
が、台風に苦しまれた。外壁
は外装材を張ったあとに、塗料
を塗った。

外見がほぼ完成したが18年
7月、以降は内装にかかった。
断熱材を入れたあとに石膏ボー
ドを張り、その上に珪藻土を塗
ったり、白く塗ったスギ板を張
った。床は加工してある松材を
購入して張った。また細かな
作業が残っているが、この春に
は完成検査を受ける予定だ。

基礎は自分で造りたかったが、
「失敗すると致命的」といっ
が、「失敗すると致命的」とい
う助言に従った。逆に屋根は
「大変だから、全部プロに頼ん
だ方がいい」と言われても、お
えて自分で工事した。「一番、
大変だった。苦しいし怖いし、
きつかった」と振り返る。

このほか、計7人の友人に手
を借りた。全部プロに頼めば、
費用が4倍近くかかったとも言
われた。井上さんは「寝りに疲
れた上に、納得の家ができた」
と話す。

井上さんの試みを見て、長閑
町で自家を造ろうという人も
出てきており、同NPOは2月も
から木材の伐採などを手伝っ
ていく。

ふるさとネットへの問い合わせ
せつメール (gen@yuto-net
.com) へ。

(稲田博)

(稲田博一)

一口で三
しました
グリ
付度・記
という作
店じまい
限界か
川柳
もう8年
コンビニ



風邪が癒えて「コトヘ」
 町に連れ戻れぬ旨
 資源郷三集積場事
 万面の残る赤き車
 木々の芽の勢いづ
 冬の月金木犀と空
 親しみて良良の聲
 菜の花の満開な
 〔選後〕第
 さかのぼるかに
 言いに伝えがあつ
 をしのいだとい
 してギンナンが
 首、福田さんの
 を守り、一族の
 迎えるのである
 読かい。第三首
 って2万年來
 作者のベットの
 ンコが作者の本
 人類とベットの

試行錯誤3年余 手作りの家

2019年

ロケ
準グラ



準グランプリを受賞し、み市の関係者らも審査員を受賞した船橋市の関係いずれも東京都千代田区

もてなしを行なったから『ロケの街いすみ』として、官民一体で取り組んでいきなさい」とコメント。きらきら

小説「半分、青い」と呼ばれ、
 東京都選ばれた。2月21日
 に東京で授賞式があった。
 (平井茂雄)

朝日新聞

○ 長柄町役場前に「バス待合所」
間伐材でログハウス風



町役場前に整備されたバス待合所。長柄町



待合所整備に協力した団体、企業には清田町長から感謝状が贈られた

町は町民の利便性向上と路線バスの利用者増加を図つと、役場前の県道を通る小湊バスの茂原駅・大津倉庫のルートの一部変更し、バス停新設を計画。役場前にバス停を設置し、町の巡回バスと接続させて感謝状を贈呈した。

待合所は鮮やかな青色で、長南町で伐採した杉などを使其建設された。室内には完成したまでの作業風景を記録した写真が展示されている。4月2日から新ルートでの運行が始まっている。清田勝利町長は「バス利用者ははじめと多くの人々が交流する場所になつてほしい」と話している。

町は待合所整備に協力したNPO法人「ふるさとネットワーク」(中谷正人理事長)や長柄町土建組合(坂本龍司組合長)など7団体・企業に感謝状を贈呈した。

待合所は、清田町長から感謝状が贈られた団体企業に協力した団体企業は清田町長から感謝状が贈られた。



町は町民の利便性向上と路線バスの利用者増加を図つと、役場前の県道を通る小湊バスの茂原駅・大津倉庫のルートの一部変更し、バス停新設を計画。役場前にバス停を設置し、町の巡回バスと接続させて感謝状を贈呈した。

長柄町役場前 手作りバス待合所



「公共交通の要に
ボランティア建築
長柄町役場脇にボランティアア
ったバス待合所が完成した。4月
めから町役場にバスが止まるよ
路線が変更され、さっそく活用
ている。

といふ町の企画に、NPO法人である「ネッツ」や土木建築組合などが、4月26日に「イ・フカツ」があらわった。

待合はログハウスの形式で面積約10平方メートル。外壁は、町内のものできたのアンケージをもとに鮮やかな青に塗られた。

ふるこネッツ理事の上野大寛さん(43)によると、地元の国枝氏60年を活用した。昨年6月から建築し、製茶作業や建築作業は、早稲田や鹿苑の学生、東京エトロ方南町ペーパーボランティア活動など、いろいろなパブリックおもしろいこと、さくらんぼ計40人が手伝ったという。

井さんらはログハウスを自力で安く建てようという活動をしていた。一度その建築を通じて、多くの人に関心を持ってもらうことができたと話していた。(福田博二)

長柄町役場に完成したバス停所のデザイン「フカツ」長柄町

町役場前を公共交通の要にしよう

荒廃杉山からログハウスのふるさと納税返礼品「NagaraYA」で長柄町をブランディングする。(計画中)

- ・ 都会から二拠点居住の小屋を長柄町に誘致して交流人口を増やす。
- ・ 周辺の町や市からは、庭の倉庫や小屋をセルフビルドする事を促進する。



フェーズ4「NagaraYA」の海外展開と、国内長柄町では持続可能な生活の試みへ。(3年後を目途に実行を計画)

- ・「NagaraYA」をブランド化して、ASEAN 地域の富裕層に、高級住宅として輸出する。
- ・国内は、セルフビルドヴィレッジとしてエネルギーも自給する小さいコミュニティを形成し持続可能な生活を試みる。

